

### Discover KURUME!

コーポ江戸屋敷って  
どう思う？



福岡大学 工学部建築学科  
助教 / 一級建築士  
西野雄一郎さん

「DIYリノベを研究する僕が得た学び」

主な研究テーマはDIYリノベーション。コーポ江戸屋敷での遊休不動産を活かした暮らしづくりの勉強会への参加に行った。福岡市城南区七隈エリアで大学生との学生寮の再生など実践面でも様々な建築の利用者とともに設計し、DIY施工するプロジェクトを手掛けている。

## 聞いてみました、久留米のはなし。

久留米って  
どんなまち？



まちびと会社ビジュアル共同代表  
(右) おきなまさひとさん  
(左) 中村路子さん

「まちびと目線で見たく留米の面白さ」

自分が暮らしたい場所で、やりたいことを、好きな仲間たちとやって暮らしているひとを「まちびと」と定義。久留米のシェアオフィス「Mekuruto」を拠点に九州・筑後エリアを中心に、各地の「まちびと」とともに地域を盛り上げるイベント企画、プロジェクト運営に携わる。

「外国人の僕から見た久留米の魅力」



Law-Law's Cafe店主  
/ 英会話教師  
カチガンバ・ローレンスさん

アフリカ マラウィ共和国出身。立命館アジア太平洋大学卒業後も好きな九州で仕事をすべく久留米に拠点を構える。現在は英会話教室を開く傍ら梅満町にて「Law-Law's Cafe」を運営。外国人目線で久留米や筑後地方を案内する「コッペチャンネル」をYou tubeで発信中。

全国に住み手のない空き家が増えています。私が動いている福岡大学周辺の七隈地区もそう。ところが、コーポ江戸屋敷での勉強会に参加して実際に自分たちのまちを調べてみると、面白い人や建物など眠っている「資源」がけっこうあることがわかったんです。この時の活動をベースに、現在は七隈で地域デザインを学ぶの学校を開き、研究室の学生や地域住民の方々とともにより広く、より深く、空き家調査をしているところ。住民の方々も興味があるようで「空き家があれば、何かができる」、「自らアクションを起こすと、誰かのリアクションが返ってくる」という手応えを感じています。嬉しい収穫ですね。



大分の大学に留学して、すっかり九州が大好きに。卒業して岡山で働いたんだけどやっぱり九州がいいなと思って戻ってきたほど。僕にとって福岡はたまに行くからエキサイティングなまち。住むなら少し離れた土地が良かったんだ。で、車で高速道路を走っている時に偶然目に入った地名が「久留米」。直感でいいなと思って引越した。人も優しい場所もいいし、大正解だったよ！

もともとDIY好きで『コーポ江戸屋敷』の『BASE』に遊びに行くようになったのも、知り合いになった職人さんがきっかけ。『BASE』ではいろんな人と出会えて、それぞれが持っている知識やアイデアを交換できるので、とても勉強になったよ。それに自分で部屋をDIYできるのもいいよね。「僕もここに住みたい!」と思ったり。日本の団地ってどこも同じ感じだと思ってたけど、『コーポ江戸屋敷』のように個性を大切にしている団地が増えると、まちがもっと面白くなっていくと思う。僕の店もここみたいにバリエーションを感じて、いろんな人が来て楽しめる場所なんだよ。僕は店に集まる人と人とをつなぐ役になれたらと思っています。

これからのURのあり方を模索していた時、縁あってコーポ江戸屋敷での勉強会に参加しました。驚いたのはそこに参加されていた民間企業の人やまちづくりに携わっている人たちの頭のやわらかさ。僕からしたら「そんなことしたら住人さんからクレーム出ますよ」と躊躇するようなアイデアが次々と出てくる!しかも、そのアイデアを実行して、つまりしてもまた別の方法で挑戦するというタフぶり。このイキイキとしたムードこそ、まちづくりの基本だと改めて感じました。



僕もこのカレッジや『コーポ江戸屋敷』の取り組みに刺激を受けて、担当していた大阪の香里団地や青山台団地のコミュニティ支援に挑戦。今ではURの敷地内で住人さんが花を育てたり交流の機会を設けたりと、温かい交流が生まれています。ただ、これは僕らURが成し遂げたことではなく、約2年間かけて住人さん1人ひとりが暮らしを見つめ直し、みんなで生活を良くしていこうという気持ちのつながりが育ったからできたことです。声かけ合えるご近所さんがいて「ここにいたらホッとする」という居場所づくりができるのは、集合住宅ならではの。短時間で結果求められる世の中では、時間をかけてみんなで熟成させていく心豊かな取り組みだと思っています。



(おきなさん以下)「久留米の人って中央を向いていないイメージ。仕事の内容を問わず、労働のためじゃなく、シンプルに幸せになるために生きてる人が、自然と混ざり合ってる。住んでいるエリアや、やりたいことのテーマは違っても、大切にしたい価値が共通してるから、誰かが何かをする時にネットワークとしてフラットにつながり合えるんじゃないかな。(中村さん以下)「うん。どこか曖昧で余白のあるつながり感は、新しく何かを始めたい人にとってすごく魅力だと思う。仕事でも暮らしでも自分の方向性を見つけやすいよね。都会だと既存のサービスが充実し過ぎててつい依存しがちだけど、久留米には『ないものは創ればいい』っていうたくましさがあるし。(お)「コーポ江戸屋敷もこれまでにない団地になりそう。この前久々に行ったら建物が増えてるって感じたんだ。住んでいる人のプロセスを大事に、いろんな人が関わりを作って、ひとの気配が感じられるようになったからかな。(中)「花壇づくりの時とか、住んで子どもたちも、みんな楽しそうで。(お)「こういう団地で育った子どもたちはどんな大人になるのかな、って想像したら楽しみ。(中)「暮らしはこうやって豊かになるんだって感じました。一度住んだらずっと住み続けたいくらいそう!」。

### Enjoy the city of KURUME!

久留米よかとこ 一度はきんしゃい!



「寝具を真っ白にすると決めていたので、寝室の壁の色はアクセントになる色の中から可愛いものを選びました」とOさん。リノベーション工事の途中、妹さんと一緒に壁の塗装を体験!自分たちで塗った分だけ部屋への愛着も深まる。



ほとめきリノベ&リノっしょ  
「空の部屋」木と色と

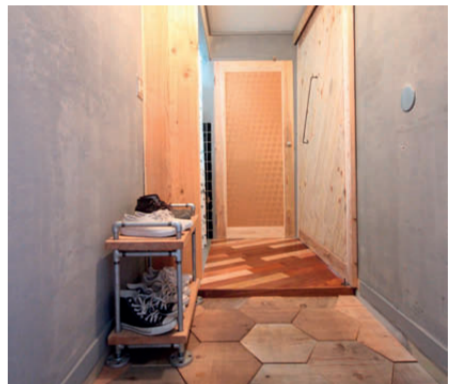
入居者とオーナー・管理会社と一緒にリノベーションを楽しむ。それがスペースRデザインが提案する「リノっしょ」の魅力だ。「空の部屋」は入居が決まったOさんの声を活かしながら、半田兄弟がデザインを担当した。「窓からの視界が開けていて気持ちがいいので、窓枠を木で覆って景色が引き立つように仕上げています。壁の色はご自身の好きな色を選んでもらいました」と半田兄弟。これを受けてOさんも「もともとスペースRデザインさんのサイトで別の部屋のリノベーションを見ているので、雰囲気の良い部屋だと思っていました。この部屋もめちゃくちゃ気に入っています!最も長く使うリビングの壁は一番好きな色を選び、ブルーグレーにしました。リビングの床の無垢材とコンクリート打ちっばなしの壁、キッチンの壁に取り付けていたたたいた棚、窓の高さなど団地特有の造り……挙げたらキリがないほどお気に入り要素が満載のお部屋です」。半田兄弟とOさん、一緒に部屋について語り合い、作業をした時間も思い出。



木に集まってくるウグイスやカササギなど、鳥のさえずりも聞こえてくる気持ちの良い部屋。ちなみに部屋の壁の色や造作した壁の素材は入居者さんの希望で変更することもできる。好みのインテリアや家具に合わせて変える楽しみもある。



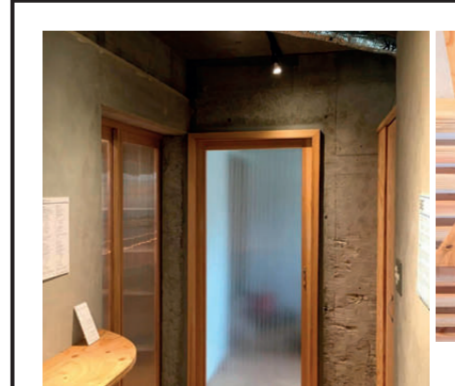
団地の懐かしさと遊び心  
「film」



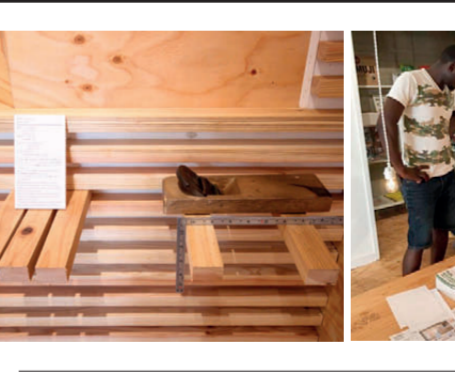
現在は大川の巨大な倉庫を拠点に活動中の「88's garage」。『木いろ』は彼らが初めて手掛けた住まいのリノベーション作品。造作ドアの編み込みや玄関床の六角形の床など、木の個性や活かし方を熟知する職人ならではの技が随所に見取れる。



大川の若き職人集団デザイン  
「木いろ」



木板を差し込むことでカウンターや棚ができる木を横断に配した壁など、大工ならではの実用性を備えたアイデアがたっくさん。クロスを剥がすだけ、扉を1枚造作するだけでも、空間の表情が驚くほど変わることを実感できる。



「コーポ江戸屋敷の一角にある、1年半ほど前に結成された職人チーム「VOICE」のシェアオフィス「BASE」。造園業や電気工事、大工、左官、不動産など建築に関する様々なジャンルのプロが集まり、勉強会や情報交換の場として活用されている。代表の亀崎正吾さんは「メンバーの間ではコーポ江戸屋敷をより住み良く、楽しい団地にするためのアイデアが頻りに飛び出します。パーゴラデッキの建設や、団地西側の小道づくりもそうでした。また、BASEはリノベーションアイデアの展示室として見てもらえるように、建物の構造があえて分かるようにデザインしています。入居者さんのリノベーションやリフォームの参考にしてもらえたら嬉しいです」。実際に「VOICE」はリフォームやリノベーション、DIYの相談も受け付けます。網戸の修繕や簡単な電気工事を通して入居者さんとの交流も図っている。みんなで創り上げる新しい団地、その動きはもう始まっているのだ。



「コーポ江戸屋敷の一角にある、1年半ほど前に結成された職人チーム「VOICE」のシェアオフィス「BASE」。造園業や電気工事、大工、左官、不動産など建築に関する様々なジャンルのプロが集まり、勉強会や情報交換の場として活用されている。代表の亀崎正吾さんは「メンバーの間ではコーポ江戸屋敷をより住み良く、楽しい団地にするためのアイデアが頻りに飛び出します。パーゴラデッキの建設や、団地西側の小道づくりもそうでした。また、BASEはリノベーションアイデアの展示室として見てもらえるように、建物の構造があえて分かるようにデザインしています。入居者さんのリノベーションやリフォームの参考にしてもらえたら嬉しいです」。実際に「VOICE」はリフォームやリノベーション、DIYの相談も受け付けます。網戸の修繕や簡単な電気工事を通して入居者さんとの交流も図っている。みんなで創り上げる新しい団地、その動きはもう始まっているのだ。



THE Craftsmanship  
「木いろ」

潜入! 職人さんのシエアオフィスの